

# 優良農家の紹介

## 水稲乾田直播栽培を活かした土地利用型農業経営（坂越農園）

上郡町は県下でも水稲大規模農家の占める割合の高い地域である。そのなかで、6年前から「乾田不耕起直播栽培」（以下、乾直）に取り組み、実績を上げている坂越修二氏を紹介する。

### 1 坂越氏の経営概要

経営規模は水稲10ha、小麦8ha、大豆4haで水稲の約半分を毎年、乾直栽培している。水稲の主な品種は「コシヒカリ」「キヌヒカリ」「ヒノヒカリ」「兵庫夢錦」である。乾直を活かして作業はほとんど本人一人で行っているが、農繁期だけ妻が手伝っている。

### 2 作業手順とポイント

一つ目のポイントは冬季代かきで、均平、漏水防止、雑草抑制を目的に1～2月に代かきを行うのが特徴である。

播種作業は4月中旬～5月中旬に6条播種機を使用し、乾粉5kg/10aを播種。緩効性肥料を約50kg/10a同時施用している。

二つ目のポイントは除草作業で、1回目は播種後7日（出芽前）までにラウンドアップハイロード500ml/10aを散布している。2回目は1回目防除の約7日後にスタム乳剤600ml/10aを散布（入水は播種後1ヶ月頃）。3回目は入水後10日（播種後40日まで）にクリンチャーバースME液剤1,000ml/10aを散布する。

年によっては、2回の散布で済む場合もある。

表 乾直と移植の成績比較

	収量 (kg/10a)	作業時間 (時間/10a)	生産費 (千円/10a)
乾直	480	10	72
移植	510	12	82

### 3 省力、低コストの実情

表は2001～02年の実証ほ等のとりまとめで、乾直のほうがほ場によるバラツキなどがあり、単収は30kg減収になった。乾直は移植に比べて、10a当たり作業時間は2時間少なく、生産費は1万円低いため、減収面の不利をカバーできている。

### 4 倒れにくいコシヒカリ

乾直のメリットとしては特に根張りが良く、茎葉が硬くなり、「コシヒカリ」でも倒伏しにくいことがあげられる。その他のメリットとしては、①育苗、苗運搬、田植作業が不要②田植時期の労働ピークの分散③刈取り直前まで湛水できるため、登熟が良好④直播栽培面積の15%が生産調整面積にカウントされる等がある。



図 乾直の播種作業

### 5 乾直導入の留意点

乾直の導入にあたっては、冬季代かき用の水が確保でき、夏場の水管理が比較的自由にできる地域に限定されるなどの制約がある。

坂越氏は「乾直に5年間取り組み、大体のコツがつかめました。一人で仕事ができ、春作業に余裕があるので、水稲の規模拡大も計画しています」と土地利用型農業の将来を考えている。

田中 哲（上郡普及センター）

## ひょうごの農林水産技術 No.130

平成15年11月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400

1部250円（申込先・県立農林水産技術総合センター）